日本銀行の支店建物 7

日本銀行旧岡山支店

中村茂樹 日本銀行文書局技師

瀬戸内海の温暖な気候にめぐまれている岡山は、古代の吉備国の時代より、多様な文化を育んできました。第七回は、岡山市に立地する旧岡山支店の建物を紹介します。

写真1　長野宇平治　明治26年（1893）帝国大学工科大学（現在の東京大学工学部）造家（建築）学科を卒業。わが国屈指の古典主義建築家として知られ、日本銀行本支店をはじめとする数多くの銀行建築を手がけた。（日本銀行金融研究所アーカイブ所蔵）

岡山支店の開設

江戸期に岡山藩池田家の城下町として栄えた岡山市は、明治期以降も中四国地方の交通の要衝の地として発展を続けます。

しかし、金融面では、中小銀行が乱立し、手形交換所や銀行集会所も設置されていない状況にあるなど、必ずしも十分ではありませんでした。当地の管轄が遠方の日銀大阪支店であったこともあり、大正期より大原孫三郎（注1）ら銀行関係者のほか地元各方面から、岡山支店誘致の運動が進められていました。

岡山支店開設にあたっては、すでに山陽地方に広島支店が開設（明治三十八年〈一九〇五〉）されていたため新たな支店設置が容易に進まないなか、大正八年（一九一九）三月に、岡山県出身の木村清四郎（注2）が、第四代日本銀行副総裁となります。

木村副総裁は、支店開設の実現に大いに尽力することになります。

岡山および善通寺（香川）に置かれた陸軍師団や、鉄道・専売局（注3）関係の国庫金取り扱いに便宜を図るため、大蔵省（現財務省）を説得し、大正九年（一九二〇）に岡山支店の設置が決定しました。

開設時の岡山支店は管轄区域の経済規模や交通の便を勘案し、岡山県のほか香川県も管轄することになります（現在は岡山県のみ）。

日本銀行は支店の用地選定にあたり、日本三名園のひとつである後楽園（注4）にほど近いかつての岡山城二の丸内、家老屋敷などがあった土地に着目しました。この土地には明治期に岡山医学専門学校と岡山県病院が建てられていましたが、どちらも大正十年（一九二一）に岡山市鹿田町（現在の岡山大学医学部の所在地）に移転したため、その土地を購入して、支店建築計画が始まります。（図1）

岡山支店の建築

岡山支店の設計は、長野宇平治（写真1）に委ねられました。

写真上（現在の外観）／下（新築時の外観）（日本銀行金融研究所アーカイブ所蔵）

（注1）大原孫三郎
岡山県倉敷市に生まれ、倉敷紡績（クラボウ）、倉敷絹織（現在のクラレ）、中国合同銀行（現中国銀行）、中国水力電気会社（現中国電力）の社長を務め、大原財閥を築き上げる。

（注2）木村清四郎
第四代日本銀行副総裁（大正八年〈一九一九〉三月～大正十五年〈一九二六〉十一月）。岡山県生まれ。中外商業新報（現日本経済新聞）を経て日本銀行入行。貴族院議員。

（注3）専売局
大蔵大臣の管理下で、タバコ・塩・アルコール等の製造・販売などに関する事務を担当した官庁。

（注4）後楽園
江戸時代初期に岡山藩主・池田綱政によって造営された元禄文化を代表する庭園。日本三名園のひとつ。

図1　歴代岡山支店の所在地

図2　旧岡山支店の平面図（新築時）

長野は、明治三十年（一八九七）に日本銀行技師となって以降、同建築顧問の辰野金吾（注5）とともに大阪、京都、小樽など明治期に建てられた日本銀行の支店建築のすべてに関わり、一連の支店建築が終了した大正元年（一九一二）に日本銀行技師長を辞し、翌大正二年（一九一三）に自らの長野建築事務所を開設しました。

独立後、長野は、辰野の教えを受け継いだ代表的な後継者として、独自の古典様式による多くの民間銀行の建物を設計する傍ら、日本建築士会会長として建築家の職能確立に尽力します。長野建築事務所は、建築部門を大幅に縮小していた日本銀行の建築関係者の多くを引き入れ、日本銀行の外郭設計組織の機能も果たしていきます。

また、この工事の施工は、辰野の教え子で日本銀行本店建物の建築にも関わった山本鑑之進（注6）が設立した工務店をそのまま引き継いだ藤木工務店（注7）が、長野の強い信頼と期待を受けて創業第一作として請け負いました。

岡山支店開設が決定する前年に没した辰野の遺志を継いで、辰野に深く関わる長野と山本の二人により建築された建物ともいえます。

大正十年（一九二一）一月に着工した工事は、翌十一年（一九二二）三月に完成しました。

最後のレンガ造り建築

新築時の岡山支店は本館、金庫および機械室・宿直室等の付属家（ふぞくや）で構成され、本館と金庫は金庫前廊下で接続されています。（図2）

本館は、鉄筋コンクリートの柱と床にレンガ積みの壁を併用する複合構造の二階建てで、レンガ積み壁の外側に花崗石（かこうせき）を貼った重厚な石造り風古典様式の建物です。建物正面の三角ペディメント（注8）や、外壁の腰部分に一列に彫りこまれた波状模様（写真2）、営業場床の大理石模様張り、および同一階天井の漆喰（しっくい）装飾（写真3）など古代ギリシャ古典様式の装飾にも特徴があります。また、コンクリート下地アスファルト葺（ぶ）きの屋根は鉄骨トラス構造（注9）の小屋組みで支えられ、柱のない二層吹き抜けの広い営業場や（写真4）、正面に並ぶ巨大な四本のコリント式オーダー（注10）の独立円柱が大きな特

写真2

写真3

（注5）辰野金吾
明治十二年（一八七九）工部大学校（現在の東京大学工学部）造家（建築）学科を第一回生として卒業。近代日本建築界の先覚者。日本銀行建築顧問。日本銀行本店本館のほか、東京駅など明治大正期の日本を代表する建築物を数多く手掛けた。

（注6）山本鑑之進
工手学校（現工学院大学）を第一回生として卒業。辰野金吾の下で日本銀行本店、東京駅、日本生命旧館等の現場監督として活躍し、のちに住友本店臨時建築部を経て、工務店を創設。

（注7）藤木工務店
大阪市に本店を置く建設会社。大阪の山本鑑之進工務店に勤務していた藤木正一が、山本鑑之進の事業を継承して、大正九年（一九二〇）創業。主な施工例／大原美術館、旧第一合同銀行本店（中国銀行旧本店）ほか。

（注8）ペディメント
西洋建築の切り妻屋根における妻側屋根下部と水平材に囲まれた三角形の部分。

（注9）トラス構造
小さな三角形を多数組み合わせた鉄骨構造。

左／写真５　正面玄関前に並ぶ壮大なコリント式列柱

下／写真６　柱頭を飾るアカンサスの葉模様

写真４　旧岡山支店の営業場風景
（日本銀行金融研究所アーカイブ所蔵）

徴となっています。（写真5・6）

この柱は、日本の古典様式建築の中で一番均整の取れている柱ともいわれ、古典様式建築家として高く評価される長野の代表作のひとつといわれています。

岡山支店完成の翌年に起きた関東大震災以降、耐震性に劣るレンガ造りは用いられなくなり、同支店は日本銀行最後のレンガ造り建築となりました。

金庫館の増築

昭和二十年（一九四五）六月、岡山市内全戸数の八割を焼失する空襲により県庁・市役所を始めほとんどの行政・金融機関が全焼するなか、岡山支店は木造の付属家等を焼失したのみで本館・金庫館等は被災を免れました。（写真7）

空襲直前に、店舗の裏側にあった支店長宅が空襲時の延焼防止策として取り壊されていたため、店舗の消火活動が迅速に運んだことが幸いしました。

被災直後、応急的に宿直室等の復旧工事を施したうえで、翌二十一年（一九四六）から二十六年（一九五一）にかけて、店舗隣接の支店長宅跡地を取り込んで逐次付属家の増改築を施しました。（図3）

一方、戦後の業務拡大により開設時の金庫館のみでは狭隘（きょうあい）となり、金庫を順次増築することになります。

まず、戦後の銀行券保管量の著しい増加に伴い、昭和二十三年（一九四八）七月に鉄筋コンクリート造りの倉庫を

写真７　空襲焼け跡に立つタール塗りの旧岡山支店

図４　旧岡山支店の平面図
（昭和 42 年金庫館増築時）

図３　旧岡山支店の平面図
（昭和 26 年付属家増築時）

（注10）コリント式オーダー
古代ギリシャ建築におけるドーリア式、イオニア式と並ぶ三つの主要建築様式のひとつ。溝が彫られた細身の柱身と、アカンサスの葉がかたどられた装飾的な柱頭を特徴とする。

（注11）水島工業地帯
岡山県倉敷市に所在する工業地帯。第二次大戦中の三菱重工業の航空機製作工場を皮切りに戦後の重化学工業化により発展し、全国的にも有数の巨大工業地帯のひとつ。

（注12）国の有形登録文化財
平成八年（一九九六）の文化財保護法改正により、従来の文化財指定制度（重要文化財）に加えて創設された文化財登録制度。急激に消滅しつつある近代の建造物の保護にあたり、より緩やかな規制のもとで幅広く保護の網をかけることを目的とする。

写真８　増築後の金庫館

代用金庫に改造して対応しました。

続いて、開設時の金庫館の老朽化対応のため、昭和三十八年（一九六三）九月に同金庫の改修に併せ鉄筋コンクリート造り平屋建ての金庫を増築しました。

その後、水島工業地帯（注11）の発展により岡山支店管轄の経済規模が急速に伸張し、銀行券保管量の更なる増加に対応するため、昭和四十二年（一九六七）十一月に鉄筋コンクリート造り二階建て地下一階の金庫館（写真8）を増築しました。また、これに併せ、開設時の金庫は取り壊され、その跡地に荷捌（にさばき）所を新築し、付属家の一部を改修しました。（図4）

多目的ホールとしての保存再生

更に、昭和五十年以降の業務機械化の進展に伴い、既存営業所建物の狭隘化が著しくなり業務に支障が出てきたため、適地を求めて新築移転することになりました。

新築用地として、既存営業所から北に二百メートル離れた旧岡山赤十字病院跡地を購入し、昭和六十一年（一九八六）二月に工事に着手、昭和六十二年（一九八七）九月に新営業所が完成し、同十月に移転しました。（写真9）

旧営業所の土地建物は銀行としての役割を終え、平成元年（一九八九）に岡山県に売却されました。

当初、県による県立図書館の移転候補地として計画が進められていましたが、旧岡山支店建物の歴史的建造物としての保存手法として県民から疑問の声が上がり、平成十年（一九九八）に再利用計画は白紙に戻ります。

その後、地元住民を含む市民組織により活用方法を検討することになり、翌十一年（一九九九）に「旧日銀岡山支店を活かす会」が設立され、同活かす会を中心に検討が進められ、平成十五年（二〇〇三）、県は「生音（なまおと）を活かした音楽を中心とする多目的ホール」として整備することを決定します。

歴史的建築物の本館建物に対する補強と再利用のための改修という困難な工事は平成十七年（二〇〇五）に完了し、同年に本館建物が国の有形登録文化財（注12）に登録されました。さらに平成二十三年（二〇一一）には、金庫館のリノベーション工事も完成しました。

歴史的建造物の銀行建築を、耐震補強を含む質の高い多目的ホールへと改修工事を施したことに対し、平成十八年度のＢＥＬＣＡ（ベルカ）賞（注13）、さらに市民組織と地方自治体の連携により保存再生利用を果たした業績に対し、平成二十四年（二〇一二）に日本建築学会賞（注14）が授与されています。

現在、活かす会の後継として設立されたＢＯＡ岡山（注15）の管理運営により、市民からルネスホール（注16）の愛称で親しまれながら、幅広い多目的ホールとして活用されています。（写真10・11）

これからも、旧岡山支店建物が、岡山の文化芸術の発信地として保存・活用されることを期待します。

写真９　現在の岡山支店

写真10　公文庫カフェ

写真11　多目的ホール（旧営業場）

（注13）ＢＥＬＣＡ賞
適切な維持保全または優れた改修を実施した既存の建築物のうち、特に優秀なものを表彰し、わが国における良好な建築ストックの形成に寄与することを目的とする表彰制度。ロングライフとベストリフォームの二部門からなる。

（注14）日本建築学会賞
日本建築学会が設けている国内で最も権威のある建築の賞。論文、作品、技術、業績の四部門からなる。

（注15）ＢＯＡ岡山
ＮＰＯ法人「バンク オブ アーツ岡山」の略称。「旧日銀岡山支店を活かす会」の旧メンバー有志により設立された「おかやま旧日銀ホール」の指定管理者（岡山県より平成十六年（二〇〇四）十月指定）。

（注16）ルネスホール
「おかやま旧日銀ホール」の愛称。飲食機能を持つ多目的ホールとして、岡山の芸術文化の育成・発信を目的とする用途に使用。